

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	名古屋市立大須小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	自ら考え、ともに学ぶ子の育成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 活動に至るまでの経緯

本校では、今年度「自ら考え、ともに学ぶ子」の育成を最上位目標として主体的に学習に取り組む児童の育成を目指している。

子ども一人一人が主体的に学習に取り組むことができるように、生活科と総合的な学習の時間において、身近な大須地域の歴史や文化、福祉、環境といった地域教材をもとに、「自らが課題を見付け、ゴールを設定し、探究する」探究学習の考え方を学習過程に取り入れ、研究実践を行うことにした。

探究学習を深めるためには、テーマを自分事としてとらえることができるようにする必要がある。そのために以下の活動を行った。

- ① 年間を通して外部講師を招いたり、校外学習を行ったりして、子どもが主体的に取り組めるようにした。また、探究活動の成果を、関わった人に伝える機会を設定し、学びを振り返れるようにした。
- ② 学校予算では実現が難しい、子どもたちの思いやアイデアに合わせた施設見学、商品の購入などを柔軟に行った。

#### 2 活動内容

##### (1) 3年生

「大須地域」をテーマに探究学習に取り組んだ。大須小の全校児童に大須商店街の魅力を伝えるために、商店街の老舗のせんべい屋さんの魅力を伝える活動を行った。

子どもたちは、オリジナルの焼き型をデザインし、オリジナルのせんべいを制作した。せんべい屋さんでオリジナルせんべいを焼いている様子を見学させてもらい、できたてのせんべいをとてもうれしそうに味わっていた。

制作したせんべいをラッピングし、手紙を添えて全校児童に配り、大須商店街の魅力を伝えた。



【デザインしたオリジナルせんべい】

##### (2) 4年生

「環境」をテーマに、年間を通して探究学習に取り組んだ。「ふれる」活動では、エコパルなごやを訪れ、環境問題への取り組みについて学んだ。環境問題の中でゴミ問題を課題として取り上げた。また、名古屋港水族館を訪れ、ウミガメの保護運動と海洋ゴミの問題について学んだ。ラムサール条約について詳しく調べている児童が、名古屋市に藤前干潟

があるということを知り、詳しく調べてみたいという思いをもった。

そこで、港区にある稲永ビジターセンターを訪れ、藤前干潟で、体験活動を行うことにした。子どもたちは、干潟に生息する生き物がたくさんいること、その生き物を餌とする野鳥がたくさん飛来している大切な場所であることについて、体験を通して学んだ。藤前干潟を守らなければならないと感じた子どもたちが、足元に落ちていたゴミを進んで拾い集める様子も見られた。

学習したことをポスターや劇にまとめ、授業参観で保護者に向けて発表を行った。また、交流しているベルギーのブラッセル日本人学校の子どもたちにも、編集した動画を送り、身近な環境を守るために自分たちにできることは何かを伝えた。



【藤前干潟での生き物採集の様子】

### (3) 5年生

「福祉」をテーマに、年間を通して探究学習に取り組んだ。

「ふれる」活動として、中区社会福祉協議会の方や障がいのある方や病気の方とともにボッチャ体験をした。体験後に講師の方から講話を聞き、子どもが関心をもった障がいや病気について調べ学習を行った。

学習を進める中で、視覚障がい者の方と盲導犬を招待して、視覚障がい者の体験を行ったり、車いすバスケットボールの体験を行ったりした。

学習の中で、「大須パラリンピックを開催しよう」と子どもたちから提案があり、「誰でも楽しめるスポーツ大会」を開催することとなった。

さらに、パラアスリートの井谷俊介さんに来校していただき、「夢の力」という講演会を行っていただいた。講演会後は、運動場で一緒に走ったり、教室で一緒に給食を食べたりした。子どもは、大須パラリンピックを開催する上で、「どんなスポーツにすると、みんなが楽しめるものになるか、アドバイスをお願いします」と発言し、井谷さんは、「経験がなくても平等に楽しめるものがあると思う」と的確に回答してくださった。



【井谷さんと一緒に走る様子】

大須パラリンピック当日は、ボッチャと一緒に体験した方を再び外部講師として招き、一緒に活動した。子どもたちのオリジナルの工夫にあふれた競技に誰もが笑顔で取り組んだ。



【大須パラリンピック(卓球パレー)】

## 3 成果と課題

活動を通して高まった関心をもとに、課題を自己選択、自己決定して探究学習を行った。子どもたちは、自分で決めた課題に主体的に取り組み、学習の成果を発表する場面にも外部講師を招いたことで、高い意欲を持続することができた。

子どもたちの思いやアイデアが実現する成功経験を通して、子ども一人一人が、自分の思いやアイデアを積極的に発信できるようになり、行事などの様々な場面で主体的に学ぶ子どもたちの姿が見られた。

地域の人やモノとの関わりを通して、地域への愛着が高まったことを感じている。本年度の実践をもとに、次年度以降も探究的な学習に取り組んでいきたい。これまでの実践を蓄積し、多くの人やモノと関わりながら実践を継続していくことで、本校の最上位目標である「自ら考え、ともに学ぶ子」の育成をさらに進めていきたい。